

# TTC 提案山行実施記録表

2012年8月23日 報告者:坂本 達治

山行名	南アルプス南部大縦走 ### [静岡県、長野県] [悪沢岳:3141m、荒川中岳:3083m、赤石岳:3120m、前聖岳:3013m]				
実施日	2012年8月12日[日]~16日[木] 4泊5日 公共交通機関&タクシー 利用				
天候/参加人員	天候:実行欄に記載 レベル:★★★★ 参加人員(申込:7名、参加:7名)				
パーティスタッフ	CL/計画: SL: 会計: 救護: 写真: <span style="float:right">スタッフ名削除</span>				
参加メンバー	参加者名削除 <span style="float:right">[男性:3名、女性:4名]</span>				
費用(一人当たり) ¥48,000/人  TTCカンパ金:¥1,090	小田原駅~静岡駅:¥3,300/人*2(往復)、 静岡駅~畑薙第一ダム(ジャンボタクシー:¥28,990/台、山小屋宿泊料[榎島ロッジ、千枚小屋、百間洞山の家、聖平小屋]:各¥8,000/人(但し、千枚小屋はトイレ使用料+¥100)、 通信費:¥2,000、共同装備:¥2,600(コーヒー・味噌汁・茶等飲み物:¥1,900、 ガスボンベ:¥300、携帯充電用電池:¥300、白樺荘ロッカー使用料:¥100)、 白樺荘入湯料:¥500/人、白樺荘~静岡駅(ジャンボタクシー):¥26,920/台、カンパ金:¥1,090				
歩行時間 休憩時間 行動時間	日程	歩行時間	休憩時間	行動時間	行程
	8/13[月]	計画	6:20	1:40	8:00
		実行	5:47	1:50	7:37
	8/14[火]	計画	11:00	2:45	13:45
		実行	9:08	3:44	12:52
	8/15[水]	計画	8:30	2:10	10:40
		実行	7:05	1:43	8:48
	8/16[木]	計画	4:50	1:00	5:50
		実行	3:49	0:37	4:26

## 実行コースタイム記録

<b>8/12(日)</b>	小田急線	JR新幹線	←-----	タクシー	-----→	東海フォレストパス							
	本厚木駅	-----	小田原駅	-----	静岡駅	-----	井川ダム	-----	白樺荘	-----	畑薙第一ダム	-----	榎島ロッジ
	7:33		8:12-36		9:23-40		11:35-45		12:25-35		12:45-13:55		14:52
<b>8/13(月)</b>	0:16		0:59		0:33		1:26		0:38		0:04		
	榎島ロッジ	-----	滝見橋	-----	小休止	-----	鉄塔下	-----	林道出合	-----	小休止	-----	清水平
	4:10-5:33		5:49		(7')		6:55-7:03		7:36-7:45		(17')		9:28-38
	(昼食) 0:10		1:03		0:38								10:16
	---小休止---	見晴台	-----	小休止	-----	駒鳥池	-----	小休止	-----	千枚小屋			
	10:20-53		11:03		(0:12)		12:18-27		(0:05)		13:10		
<b>8/14(火)</b>	1:02		0:14		0:48		0:40		0:22				
	千枚小屋	-----	小休止	-----	千枚岳	-----	急斜面岩場夜明待ち	-----	丸山	-----	小休止	-----	悪沢岳
	2:00-3:00		(0:04)		4:06-14		4:28-50		5:38-46		(0:14)		6:40-48
	0:40		0:05		0:57		0:32		1:17		0:11		
	---小休止---	中岳避難小屋	-----	中岳	-----	荒川小屋	-----	大聖寺平	-----	小休止	-----	小赤石岳	-----
	(0:05)		7:55-8:36		8:41		9:38-56		10:28-33		(20')		12:10
	0:17		(昼食) 0:03		1:18		0:42						
	---榎島分岐---	赤石岳	-----	赤石避難小屋	-----	小休止	-----	百間平	-----	百間洞山の家			
	12:21		12:38-13:07		13:10-35		(0:09)		15:02-10		15:52		
<b>8/15(火)</b>	0:43		0:18		0:19		0:53		0:52				
	百間洞山の家	-----	尾根	-----	大沢岳分岐	-----	中盛丸山	-----	小休止	-----	小兎岳	-----	小休止
	3:30-5:12		5:55-6:07		6:25-28		6:47		(0:13)		7:53		(0:05)
	0:50		1:27		0:45		0:58						
	---小休止---	聖兎のコー	-----	小休止	-----	前聖岳	-----	小休止	-----	小聖岳	-----	聖平小屋	
	(0:10)		10:00-03		(0:22)		11:52-12:02		(0:05)		12:52-13:02		14:00

8/16(木)	0:15	1:02	1:26	1:06
聖平小屋-----	岩頭滝見台-----	小休止-----	吊橋-----	小休止-----
3:30-5:04	5:19-5:22	(0:10)	6:34-39	(0:10)
井川観光協会送迎バス	入浴・昼食	タクシー	JR新幹線	小田急線
=====	畑薙第一ダム=====	白樺荘=====	静岡駅=====	小田原駅=====
11:00	11:06-15:05	17:50-18:19	19:06-23	20:00

コースの概要、特記事項、反省事項等

【I】経緯説明

これまでの TTC 実績において南ア南部の山行は4回行なわれており、『樫島～荒川三山～赤石岳～樫島 周遊コース』、『樫島～赤石岳～聖岳～樫島 周遊コース』、『光岳周遊もしくはピストンコース』の3つのパターンに分類できる。今回の計画はこれらの3回分を一気にまとめて百名山:4座、3000m峰:4座を縦走してしまおうという内容で、体力的には厳しくなるものの当世流行(はやり)の省時間、省資源となり、5泊6日+予備日:1日のロングコースの設定としてスタートした。

南ア南部のコースは人気が高く何名かの方からオファーをいただいたが、時間的制約で1週間も家を空けられないとか、体力的に自信がない等のフィードバックをいただいたことから、『樫島～荒川三山～赤石岳～聖岳～光岳縦走コース 5泊6日+予備日:1日(以下、Aコース)』と『樫島～荒川三山～赤石岳～聖岳～樫島周遊コース 4泊5日+予備日:1日(以下、Bコース)』の2コースの設定とすることにした。

このような大計画を進めようとするすると予期せぬ制約条件がいくつも登場し、結果として大きく5回の計画改訂を行なわなければならなかった。計画変更を余儀なくされた主な理由を以下に列挙する。

- ・昨年の台風6号の爪痕が強く残っており、本年は静岡駅～畑薙第一ダム間の静鉄バスが運行されないことが分かった。
- ・Aコースの最終下山口である易老渡から平岡駅に抜ける林道が、本年5月頃に発生した落石による死亡事故のため本年度中は通行不可となった。これにより、Aコースは光岳小屋宿泊後茶臼小屋まで戻って宿泊し、畑薙湖大吊橋を通過して下山する、TTC 始まって以来の超ロングコース(6泊7日)に設定し直した。
- ・Aコースへのエントリーは当初4名でスタートしたが、日程の都合や体調不良等でキャンセルが出て最終的に2名となり、リスクが大きいためAコースを諦めBコース1本に絞って実施することになった。
- ・Bコースの下山口である聖沢から東海フォレストの送迎バスを利用するためには樫島まで徒歩で戻らなければならず(歩行時間:約50分) この計画であったが、井川観光協会が聖沢登山口～畑薙第一ダム～白樺荘～井川駅まで無料で送迎するバスを出してくれていることが分かり、これを活用することにより大幅に効率化できることが分かった。

【II】計画全般の振り返り

山行実施報告書は文字通り山行の実績を記録として残すものであるが、次回以降に同様な計画をされる方のために活用していただくことが大きな目的の1つと考えられることから、時系列な記述はできるだけ簡単にまとめて後述することとし、計画全般に関わる振り返りをまず行なうこととする。

(1). 天気予報は恨めしいほど当たらなかった

最近の TTC 通信の『山に想う』に、山の天候に関わる対照的な興味深い記事が寄せられている。第185号(ET さん寄稿)では、『百名山は晴れた日に』と題して述べられている。どの山行においてもスタート前に好天を願わない者はおらず、確かに真理だと思われる。一方、第183号(KM さん寄稿)では、「…霧の中を足元の花しか見えない状態で無くなって歩いたときの感覚が何とも言えない。もしかしたら座禅と似た感じかもしれない。山は晴れがいいけれど、そうでない時もまんざらではないと思う…」と述べられており、非常に感慨深いコメントで、このように受止めると山に向き合う姿勢が変わるような気がして、強く心に残った。

今回の南ア南部縦走では、スタート前の天気予報はあまり芳しくなかったが、『前半は“一時雨 or 時々雨”マークが見えるものの日が経つにつれて“曇り～晴れ”方向に徐々に回復する予報』となっており、良い方に外れることを願った。初日(8/12)に畑薙第一ダムに到着したときには明るく日が射しており、日陰を探してお弁当を食べたほどで、地元の方が「天気予報が外れて良い天気になった。これから期待できるね…」と嬉しいコメントを下さり大いに期待した。2日目の千枚小屋までは曇り空で、途中でパラパラと降られたものの許容範囲内であったが、3日目になると様相は一変した。

本計画のハイライトとなる千枚小屋～百間洞までの超ロングコースの出発は、午前3時の漆黒の闇で雨は降っていなかった。丸山辺りから雨に変わり、悪沢岳を經由して中岳に近づくにつれて雨も風も強まり、横殴りの風雨が体温を奪い取っていく。このように条件が厳しいと道具の差が如実に表われてくる。ゴアテックスのレインウェアも長年使ってい

ると撥水性も防水性も大幅に低下して用を成さず、下に着ているものがグッショリと濡れている方や、靴下に含まれた水を絞ることができるほど靴の中に水がしみ込んでいる方がおられ、道具の大切さを痛感した。更に、小屋の外の寒風吹きすさぶ中で荷物を全て出して着替えを行なったために低体温症ではないかと思われるほどガタガタ震えが止まらない方も現われ、計画時間に対してドンドン遅れてきて百間洞まではとても無理ではないかと心が折れそうになった程であった。

天候も CL の責任の一部とされている方がおられるらしい(今回のメンバー言われた訳ではない)が、好天の場合には「日頃の行ないが良いので…」とうそぶいていれば良いのだが、今回のような荒天となるとガックリである。入山初日と下山最終日のみが好天となったことも厭味に思え、KM さんの「山は晴れでない時もまんざらではない…」という名言に対し、今回ばかりはそのような心境にとでもなれなかった。下山後にお会いした地元の方の「南アルプスの山々が、『今度晴れたときにまたおいで！』って言っているんだよ！」という言葉が救いであり、いつの日かリベンジを強く心に誓った。

## **(2). 千枚岳の先(西側)の急斜下降岩場の通過**

千枚小屋～百間洞までの超ロングコース(歩行距離:14.7km、累積標高差登り:+1390m、下り:-1600m)に対応するため、千枚小屋を早朝3時に出発。千枚岳まではほとんど問題なかったが、その先の丸山に向かって徐々に下り、15分ほど歩いたときに急斜下降岩場に遭遇した。真つ暗闇の中で、目先とその直ぐ先に赤ペンキマークがあるもののその先がほとんど垂直に落ちているように見えて、どのような状態になっているのか?深さがどの程度か?等全く分からない。時刻を確認すると4時28分、日の出の5時2分まで34分あり、依然として漆黒の闇である。ロープや鎖の設置もなく、きちんと3点確保で降りていけば恐らく大丈夫であろうが、一か八かで進んでいくにはあまりにも危険との判断で、夜が明けるのを待つことにした。4時50分になると辺りが白んでぼんやりと見え始めてきて足元を確認することができる状態になったことから、ゆっくり確実に進んでいくと、結果としては予想していた通りそんなに難しくはない岩場であり、先に降りた人が次の人に足場を教えるというリレー方式で問題なく降りることができた。明るい状態であれば高さ4～5mほどの何でもない岩壁であり、これまでにここを通られた方々は恐らく「そんなところがあったか?」と思われるのではないかと思うほどであるが、漆黒の闇では難度が格段に上がってしまう。今後、このコースを夜明け前に出立される方は、本実施記録のコースタイムを参考にさせていただいて、夜明け近くの明るくなったところでこの岩壁を通過できるように時間設定いただいた方がよいと思う。

## **(3). 百間洞山の家で夕食を摂るなら 16:00 までに到着のこと**

千枚小屋～百間洞の間を TTC の実力で歩くことができることを証明することができたが、想定外の出来事があった。百間洞山の家は美味しい豚カツを食べさせてくれることで有名であり、宿泊客を何名かのグループに分けて食事の準備を進め、出来立てのホカホカをグループ毎に食べさせるというこだわりようである。予約確認した際に、「10名未満のグループは宿泊予約不要」とのことで予約を受け付けてくれなかったが、「17時に到着して夕食を食べさせてくれ…といわれても困る」と言われたことが耳に残っていて、ロングコースであることから到着時間が常に気になった。前述したように夜明け待ちで足止めされたことや、強雨、強風の中を進んできたことでこの日の前半は計画時間よりかなり遅れて推移していた。赤石岳避難小屋で休憩後、あとは百間洞までひたすら下りとなる。時間が気になる CL と健脚の二人(HMさん、THさん)が先陣となり、後のグループ4名と自然と二手(ふたて)に別れる形となって、先陣グループは軽快に進んでいき15時52分に小屋に到着した。早速受付を開始したが、「夕食および翌日の弁当の受け付けは16時まで!」の看板があった。もう少しのんびり歩いていたら、美味しい豚カツにありつくことはできなかった訳で、グループを分けて少し急いで進んできて良かったと胸をなでおろした次第である。16時を過ぎて到着した他の宿泊客が、全ての人の夕食が終わった後でポツリとカレーライスを食べていたのが印象的であった。それにしても宿泊予約で事前に電話した際に、このような情報の提供をいただけなかったのは大いに疑問であるが、自己防衛としては、このような情報を聞き出すしつこさが必要と感じた。

## **(4). 山小屋の朝食時間**

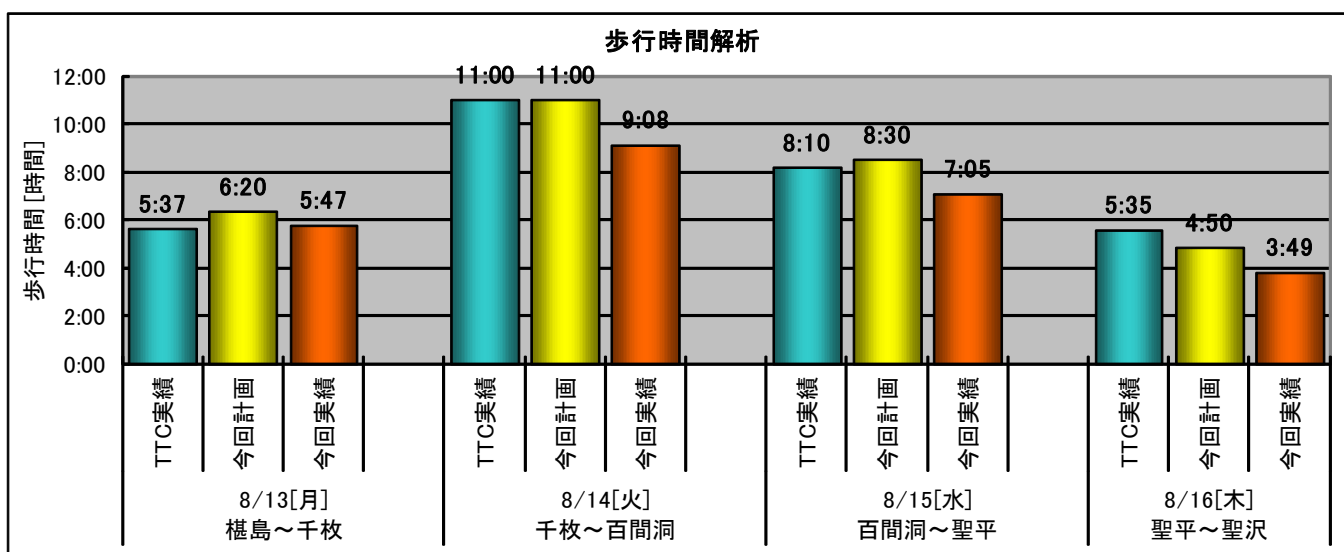
山小屋の重要な情報の1つとして朝食時間がある。これにより出発計画時間を明確に設定することができるし、早出の場合の弁当への切替についても計画段階で判断できる。今回の南アの山小屋では、“10名未満のグループは予約不要”を謳い文句としているためか、予約のために連絡を入れた際に朝食の時間を確認したが、どうも要領を得ない。仕方なく、到着(したい)時間から行動(予定)時間を差引いて出発時間を設定して計画策定を行なったが、現地で朝食時間が分かった段階で出発時間を調整する必要があった。特に最終宿泊地の聖平小屋では、「聖沢に下山後の1番の送迎バス(10:00発)に間に合うように朝食は4:30に設定してある」との情報が現地に行って初めて分かった。朝食を食べて1番のバスに間に合うとはとても思えなかったことから、計画では2番のバス(13:10発)を利用することで考えていたが、間に合うのであれば早く下界に降りてゆっくり温泉に浸かりたいとの思いから急遽変更することにした。食事時間の情報について、事前に何とか入手することができれば計画の精度が格段に向上することを痛感した。今後に活かしたい。因みに、今回利用した山小屋の朝食時間は以下の通りであった。榎島ロッジ 5:00、千枚小屋 4:30、百間洞山の家 4:30、聖平小屋 4:30。

## (5). 携帯電話のアンテナ

山行における携帯電話の有用性について改めて語る必要はないと思う。携帯電話の電波状況(アンテナ)を事前に確認して山行に臨んだが、ほぼ事前情報通りの状況であった。通常言われている通りdocomoが圧倒的に有利であるが、アンテナ3本がどの場所でも立つ訳ではなく、比較的電波状況が良い場所を教えてもらって、しかも同じdocomoであっても機種によって感度が異なることから、今回はdocomoの2機種を使ってトライして、下界と交信することができた。携帯電話会社のサービスは日進月歩で進化しているようで、大きな山行では特に電波状況の確認が大変重要である。なお、衛星電話を設置している山小屋もあったが、緊急以外は使用を拒否され、一般連絡は携帯電話を活用するしかなかった。

## (6). 歩行時間解析

計画策定段階において、過去の TTC 実績に基づいて歩行時間を見直すようフィードバックを受け、元々設定していた予測時間に更に余裕を持たせて計画を立て直した。下図は山行の4日間の歩行時間について、TTC 過去実績、今回の計画および実績時間をまとめたものである。山行1日目(8/13: 榎島～千枚小屋)については過去実績と今回実績がほぼ同等になっているものの、残りの3日間は今回実績が圧倒的に短くなっていることが分かる。前述の通り、天候に恵まれなかったことから景色を堪能する機会が少なく黙々と歩いたためか、あるいは、CLが常に先頭を歩いて、口では「ゆっくり歩く」と言いながらドンドン先を急いだためか、明確な理由を述べることはできないが、どうやら後者の方が主要因のように思われる。いずれにしても今回参加した60歳～71歳のメンバー全員がシッカリと歩いたことは紛れもない事実である。



## 【Ⅲ】時系列に状況説明

### 8月12日 [日] 厚木～榎島ロッジ 天候: 曇り時々 晴れ

参加メンバー7名の内6名が本厚木駅に集合し、小田原駅で残り1名と落合って、新幹線で静岡駅へ向かう。静岡駅北口に出ると予約していたジャンボタクシーが既に待機していた。復路も同じドライバーさんが担当していただけることになっており、下山後の対応も打合せながら畑薙第一ダムまで約3時間のドライブである。トイレ休憩を挟んで下山後に入浴利用予定の白樺荘に立ち寄り、着替えの残置荷物をロッカーに置かせてもらった。7人分の着替えが1つのロッカーに納まったそうで、4日間利用して何と100円也。白樺荘は静岡駅から3時間近く掛かる奥地にある旅荘であるが、この辺りではここしかないという硫黄温泉が湧き出て、食事では鹿さしや蕎麦が美味しく人気が高いとのこと。確かに繁盛している様子で、数年前に建替えられたという施設はとても綺麗であった。計画では、下山後に1時間でサッとお風呂に入るのみで考えていたが、急遽、下山後のタクシーのピックアップ場所および時間を変更し、白樺荘でゆっくりできるように調整した。

畑薙第一ダムには予定より45分ほど早く到着。駐車場は満杯状態でマイカーが並んでおり、丁度お盆休み時期と重なって南アルプスの人気の高さをうかがい知ることができる。受付には東海フォレストの関係の方であろうか、小さな売店のおばさんも含めて5名のスタッフがのんびりと受付をしていた。登山届けを提出して、昼食を摂っているとお茶のサービスをいただき、暖かい対応に心が和む。榎島行きの東海フォレスト送迎バスが、乗車人員が満杯になったためと思われるが、定刻より35分早く出発した。

榎島ロッジに到着して受付を済ませ、まずはお風呂に入って汗を流す。7人で一部屋貸切であり、冷たいビールを購入して持込んだ酒やつまみで大宴会、これからの5日間の健闘を誓い合った。夕食までタプリー時間があつたので周辺を散策したが、東海フォレストは余程儲かっているものと思われる。立派な施設がキチント手入れされており、このような山奥にある施設とはとても思えないレベルである。翌朝スタートの登山口を確認して、豪華な夕食をいただき、夜空を

確認すると星がキラキラと輝いていて、3000<sup>光</sup>峰で満天の星を見ることができればさぞかし美しいに違いない…と淡い期待に胸を膨らませながら、早々に眠りに着いた。一兩日後には悲惨な天候に遭遇することなど思い描くこともなく、安らかな眠りに落ちていった。

### 8月13日【月】 榎島ロッジ～千枚小屋 天候：曇り 一時 雨

のんびりと7時に出発する計画であったが、5時に朝食を頂き、5時半過ぎに出発となった。山では常に早目々の行動が肝要である。本日は千枚小屋までのおよそ 1500<sup>光</sup>の高低差をひたすら登っていく行程である。時間的にかなり余裕があり、スピードを落して登っているつもりであったが、それでも「少し早い」とのフィードバックを受けながらできるだけゆっくりと確実に登っていく。清水平、蕨段、見晴台、駒鳥池…と順調に通過し千枚小屋に13時過ぎに到着。

千枚小屋は1ヶ月前にリニューアルオープンしたばかりとのことで、木の香りも豊かな真新しい山小屋で、更に嬉しいことに生ビールの販売を行っていた。ご多分に漏れず、夕食時間までタップリ時間があることから本日は食堂で大宴会、次から次に出てくる酒に CL はスッカリ酔っ払ってしまって、何を喋ったのかも記憶が定かでない。小屋に到着直後にザーッと降り始めた雨が、降ったりやんだりを繰り返している。天気予報によると“明日は一日中雨模様”とのこと。それでも、「少しくらい降ったって構わない。要所々々ではきっとお日様が顔を出してくれるだろう…」とあくまで楽観的にほろ酔い気分ですぐに就いた。

### 8月14日【火】 千枚小屋～百間洞山の家 天候：曇り 後 雨(一時 強風・強雨)

本計画のハイライトである千枚小屋～百間洞山の家までの超ロングコースを乗り切るためには、早朝というよりは深夜の出立が必要との諸先輩のアドバイスを受けて午前3時ジャストに出発した。雨が降っていなかったのは幸いであったが、恐らく曇り空で、月明かりも星の瞬きもない漆黒の闇である。おまけに靄(もや)が掛かっておりヘッドランプが 1～1.5<sup>光</sup>先しか照らさない。まさに目先の登山道と時々付けてある赤ペンキマークを頼りに1歩々々進んでいった。多少迷いながらも千枚岳まではほとんど問題なく到着することができたが、その先の丸山に向かって徐々に下り、15分ほど歩いたときに急斜下降岩場に遭遇した。このときの対応については【Ⅱ】(2)項で述べたのでここでは割愛する。風を避けるため岩影に身をひそめて空が白んでくるのを待つ二十数分間の長かったこと、それでも安全には変えられないとジッと我慢した。

丸山を通過する頃から雨に変わり、悪沢岳を経由して中岳に差し掛かる頃には強雨が横殴りの強風にあおられ頬に当たって痛いほどで、体温をドンドン奪っていく。中岳避難小屋に着いたときには、着ているものがズブ濡れ状態の方とか、靴の中がグショグショの方とかがおられ、先行きがとても不安になった。それでも時間はまだ8時過ぎ。避難小屋で暖かいカップ麺をいただいて少し元気が回復したので、取敢えず荒川小屋まで行ってから判断することにした。中岳避難小屋のオヤジ曰く、「天気のリcoveryの見込み？明らかに前線の通過でありリcoveryの見込み無し！ 明日も前線がこのまま停滞するので、今日と同じでリcoveryの見込みは全くない！」と断言調でつれない言葉。結果としてはこの予測が当たっており、赤石岳～百間洞の間で一部、雄大な山容を垣間見ることができたものの、ほとんど“忍”の一字でひたすら歩いてそれぞれのピークを踏んだのみというような状況であった。特に悪沢岳は、間違いなくピークを踏んで道標の前で集合写真を撮ったことは覚えているが、周りがどのような状況であったかどうしても思い出せないほどである(集合写真を見てもバックは真っ白で、道標以外の周りの状況は全く分からない)。中岳避難小屋を出発して暫く行くと荒川小屋に向かう下りが風下となって風雨が弱まり随分と楽になった。場合によっては荒川小屋泊りとすることが頭をよぎったこともあったが、小屋に到着したのが9時半過ぎ、天候が収まってきており、赤石避難小屋までは頑張ることにした。大聖寺平～小赤石岳～榎島分岐を経由して赤石岳山頂に着いたのが12時半、この頃には雨はスッカリ上がって風もそれほど強くはない。ここで少し遅めの昼食を摂り、眼下に見える赤石避難小屋にトイレ休憩も兼ねて立ち寄ることにした。小屋の中にはストーブはあるが火は点いていない。それでも風が凄げると暖かいおもてなしつきホットコーヒーを全員で頂いたことで急激に元気が出てきた。この時点で13時半、百間洞まで2時間半の行程とのことで、計画通り進むことに何のためらいもなかった。メンバーの頑張りやチームワークで何とか百間洞山の家に着いたときには、正直ホッとした。

### 8月15日【水】 百間洞山の家～聖平小屋 天候：曇り 後 雨

4時半に朝食を頂き、計画通り5時過ぎに出発。峠までの40分強がいきなりの急登で、寝起きのまだ覚めていない身体に少々堪える。この峠を登っていくと乗越す形で真っ直ぐに進む怪しい道があるが、これは間違いで兎岳～聖岳方面は右に曲がって進むのが正解。この峠でしばらく休んでいると、大きなリュックを背負った男女2人が追い付いてきて真っ直ぐに進んで降りていったが、暫くすると「この先は崖になっていて行き止まり！」とフウフウ言いながら戻ってきた。どうやら我々が道をふさぐ形で休んでいたため、間違った道に導いてしまったようであるが、お陰さまでロスしないで済み助かりました(感謝！)。

中盛丸山は棒が1本立っているだけの何の変哲もないピークであった。小兎岳、兎岳に向かう登りはなかなかのもので、「うさぎ何てかわいい名前がついているけど、この登りは可愛くないね」等とブツブツ言いながら、2時間ほどでこれらのピークを制覇し、10時丁度に兎岳と前聖岳の間にあるコルに到着した。ここから先は、「登っても登っても前聖岳に中々到着しない」と噂に聞いており、このことをメンバーに伝えたが、次のピークが見えるたびに「今度こそ前聖よね？」「いや違う！」の繰り返して、聖兎のコルからおよそ2時間掛けてようやく前聖に到着した。雨こそ降っていないが相変

わらずほとんど見通すことはできない。「この先に奥聖岳があって往復40分ほどの道のりだが、晴れていれば360°のパノラマビューが期待できるよ」と水を向けても誰一人として行こうと言う人は現れなかった。ここから小聖岳を経由して聖平小屋まで更に2時間ほどの下りは、所々にお花畑が広がっており、タカネビランジの気高い花にも出会いながら(100%受け売りのコメントです)、のんびりと歩いた。

#### **8月16日【木】 聖平小屋～厚木 天候：曇り時々 晴れ**

朝食後5時過ぎに出発。「普通に歩けば5時間ほどで聖沢に到着できるので、10時発の井川観光協会の送迎バスに間に合う」という説明が気に掛かる。普通に歩くというのはどの程度のスピードか良く分からないし、私の計画書の行動時間(=歩行時間+休憩時間)では5時間50分となっている。このバスを逃すと次は3時間10分後まで無いし、樫島まで戻って東海フォレストの送迎バスを利用することになると、聖沢から更に50分ほど林道を歩かなければならない。下りばかりではなくかなりきつい登り返しを何回か越え、焦る気持ちを抑えつつもつつい早歩きとなりながら、30分の余裕を残して9時半に聖沢登(下)山口に到着することができた。皆さんよく頑張りました！

25人乗りのバスは途中の畑薙湖大吊橋で登山客を乗せるとほぼ満員状態で、1時間強揺られて白樺荘に到着した。バスを1本前に早めたことで計画より3時間ほど早く白樺荘に到着することができ、ゆっくり温泉につかって食事と反省会を行なうことができるのは良いのだが、迎えのタクシーのピックアップ時間が計画のままとなっており、携帯で何とか連絡を取って1時間早めてもらうことができた。それでも白樺荘での休憩時間はたっぷり4時間ほどあり、温泉と美味しい食事とビール+αで、5日間の疲れを十分に癒すことができた。

静岡駅に18時頃、小田原駅に19時頃、本厚木駅に20時に到着して、厳しかったけれどきっと深く印象に残る山行はお開きとなった。

#### **【IV】参加メンバーからのコメント**

##### **T.Hさんから一言**

楽しみにしていた今回の縦走は悪天候で、一度も山容が見えず残念でしたが、色々な花が咲き乱れ私達を癒してくれました。楽しい雰囲気の中で、10年以上前に歩いた晴天の時のことを思い出しながら歩くことができました。皆さん！お疲れ様!!お世話様でした!!

##### **K.Tさんから一言**

今回の南ア縦走はよもやの雨と風に遭遇した山行でした。10年以上使い古した雨具はゴア効果が全く失せ、三回張り替えた靴は音がするほど水が入り込んでしまった。寒気を伴った強風は容赦なく体温を奪い一時、低体温症のように震えが止まらない。避難小屋で着替え、カップ麺とホットコーヒーで止まるが体調を崩してしまう。最終日にやっと回復するがパーティー仲間に多大な迷惑を掛けて何とかヨレヨレで下山ができました。道具、パッキングを軽く見たツケがもたらしたもので、大いに反省した次第です。

##### **K.Eさんから一言**

S.T司令官のもと雨にうたれながら7人で力を合わせ、南アルプスビッグ3を制覇しました。咲き乱れるタカネビランジ等、花々は気高く咲いており4日間を楽しみました。皆さんお疲れ様！

##### **W.Eさんから一言**

昨年の15周年の北アルプスに続き今年も挑戦しようと思気込んだ、昔テントを担いで登ったこのコースは二回に分けての山行でしたが今回は一度で光岳までのロングコースとなったが一人の体調が悪く光岳は中止になる、天気が悪かったので良かったかな・山は天気で気分も違う、7人が同じコースで私が皆さんの足を引っ張らないようにと気を使う、とにかく自分なりに登ろうと思う、生憎の雨、山頂に着いても真っ白の世界、本当は北アルプスや南アルプスが見えるのに、でも一瞬、富士山が見えた、見たのは後ろを歩いた3人だけでした、登って、登って、下って、下っての山行でしたが、楽しい、楽しい南アルプス大縦走でした、皆さんご一緒させてくれてありがとうございました。

##### **K.Sさんから一言**

南ア南部はいかに山深いかを知ることができました。また、天気に恵まれなかったため貴重な雨天時の訓練も出来ました。山の全容が確認できなかったのも、また行く必要がありそうです。まずはまだ登っていない南アに行ってみたいです。メンバーとは5日間一緒に行動し、楽しく山行することができて大変うれしく思っています。ありがとうございました。リーダーは計画の段階から変更等が発生し、また実施時の悪天候による見直しや最終判断等さぞや大変なご苦労があったと思います。お疲れさまでした。そしてありがとうございました。

##### **H.Mさんから一言**

今回の山行は一生の思い出になりました。あんな凄まじい体験は滅多に出来るものではないので。途中、雷鳥の親子に出会い、溜息の出るようなお花畑に癒され、一緒に励まし合いながら過ごした仲間との絆も深まって忘れられない5日間になりました。

-- 以上 --